

## 歯を磨けば命が輝く 〜歯原性菌血症の怖い話〜



花田 信弘（はなだのぶひろ）  
福岡県出身 歯学博士

鶴見大学 歯学部 探索歯学講座 主任教授  
国立感染症研究所 口腔科学部長を経て現職。  
全国各地の大学歯学部の講師を務める。

### 第6話 口の中のエイリアンが関節へ行く

現代医学で治療が困難な感染症の大半に関与するのがバイオフィームです。前回はバイオフィーム細菌というやっかいなエイリアンが口の中から血液に侵入して腎臓に行くお話をしました。今回は関節に行くお話をしましょう。歯周病になるとエイリアンは歯の周りの毛細血管から静脈に侵入し、心臓から動脈血に入ります。毛細血管から静脈血に侵入するまでの時間はわずか90秒です。私たちも実際に測ってみましたが、この速さは本当でした。血液に侵入したエイリアンはさまざまな毒素を持っていますから、歯を磨かないと全身的な炎症や発熱を引き起こします。関節には滑液があります。その成分は血液に由来し、歯周病の患者さんは関節滑液中にも口からエイリアンが渡来してきて炎症を起こします。しかし、関節とエイリアンの関係は炎症だけではなく、エイリアンの中でも「超」がつくほどの悪玉がジンジバリス菌ですが、この菌は人間のたんぱく質を人間以外のたんぱく質（異物）に変える力を持っています。歯周病になるとやがてジンジバリス菌が関節滑液の中に住み着きます。関節滑液の中のジン



ジバリス菌はP.A.D.という酵素を使って、勝手に人間のものではない異物（シトルリン化ペプチド）を作り始めます。免疫力を担う細胞は異物を発見すると攻撃を始めますから関節の中で戦いが始まるのです。免疫力とシトルリン化ペプチドの戦いはエイリアンを最終的に排除するまで勝負がつかみませんが、長い間戦場になった関節はかわいそうにボロボロになってしまいます。これが自己免疫疾患とされる関節リウマチです。

孫子の兵法に、「百戦して百勝するは次善の策なり」という言葉があります。勝つ戦いでも戦争をしてはいけないのです。最善の策は「戦わずして勝つこと」です。エイリアンとの戦いで免疫力が勝利したとしても、関節が変形するなど身体に大きな障害が残ります。子どもの時から毎日歯を磨いてエイリアンを血液の中に入れないことが最善の策です。「戦わずして勝つ」ことが意味するものは深いので「沖繩の知恵」の一つに採用していただきたいと思います。



鶴見大学歯学部探索歯学講座

〒230-8501 神奈川県横浜市鶴見区鶴見2-1-3

TEL.045-581-1001

<http://dent.tsurumi-u.ac.jp/>



一般社団法人 口腔除菌協会

東京都港区六本木7-17-10

TEL.0120-59-6480

<http://www.kenko-station.jp>